

## 「FUTURE IS YOURS」

山形県知事 吉村美栄子



子どもたちの夢を実現させたい。“世界のフィールドに立ちたい”“オリンピックで活躍したい”と願った時、その夢への道を開いてあげたい。「YAMAGATA ドリームキッズ」は子どもたちの可能性を見出し、伸ばす事業です。日本オリンピック委員会や国立スポーツ科学センター、体育大学と連携し、県内の競技団体と協力しながら育成プログラムを展開し、トップアスリートを育てる取り組みです。皆さんも、夢に向かって前進する子どもたちを応援してください。

### 池田めぐみ選手（フェンシング・山形県体育協会所属）

私とフェンシングの出会いは、高校1年の時でした。自然と心の底から「楽しい」と思う気持ちが湧いてきてそれから夢中になりました。中学時代は、陸上の100m、高跳び、砲丸投げをやっていたので「走・跳・投」という様々な動きが、今でもプレーの場面で生かされていると感じています。

昨年、ドリームキッズのキャンプに参加し、子どもたちに色々な可能性を感じました。未来にワクワクしている顔はとても輝いていました。これからがとても楽しみです。小学校時代は一つの運動にかたよることなく、バランスや反応、リズムなどのコーディネーション能力を身につけることが必要だと思います。



これからドリームキッズに応募しようとしている小学生のみなさん、自分の心に問いかけて、チャレンジしてみたい気持ちが少しでもあるなら、トライしてみてください。その1歩を踏み出す勇気があなたの未来を大きく変えるかもしれません。がんばれ、山形の子どもたち！！

### 安孫子充裕選手（陸上・チームミスノアスレティック所属）

陸上競技は中学校の部活動で本格的に始めました。陸上は自分の努力次第で試合に勝ったり、自己記録を更新したりできるのが魅力です。高校2年の時に、世界ユースという18歳未満の選手対象の世界大会があり、当時の僕のランキングでも出場が狙える位置にいたので、その頃から「世界」を意識するようになりました。



北京オリンピックでは自分が緊張していることに気付くことができず、緊張していないと錯覚してしまう程の緊張感を体験しました。それがオリンピックなんだと感じました。

みなさんにも「この競技で世界と戦いたい」というスポーツがあるかもしれません。将来をイメージできることはとても良いことです。しかし、どのスポーツでも走ったり、跳んだり、投げたりするように様々な運動が複雑に絡み合っているものです。専門的なトレーニングは必要ですが、それだけでは同じ筋肉に何年間も負担をかけることになり、怪我をする確率が高くなります。みなさんの歳頃では、色々なスポーツをして遊ぶこと楽しむことが大切だと思います。

ドリームキッズではいろいろなスポーツを経験することができると思っています。何よりもチャレンジすることに意味があると思います。僕もロンドン目指して頑張ります！！